

研究課題：コロナ禍における小児骨折の推移

1. 研究の目的

2019年12月に報告された新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界各国に広がり、2020年1月には世界保健機構（WHO）によりアウトブレイク、3月にはパンデミックが宣言されました。その後感染拡大を防ぐため各国でロックダウンの対策がとられ、日本でも4月に緊急事態宣言が発令されました。解除後も断続的に新規感染者数の増加を認め緊急事態宣言が繰り返し発令されてきました。そのたびに外出自粛やリモート授業、分散登校、部活動や課外活動の中止と小児の生活様式は一変していき、コロナ禍以前にくらべ活動性の低下が懸念されます。国内でのコロナ禍の小児骨折患者数の長期動向を調べた報告はなく、明らかにすることで終わりが不透明なコロナ禍において今後の小児公衆衛生学的に有用であると考えました。我々は緊急事態宣言下では骨折患者数の減少や受傷機転の変化があるのではないかと仮説を立てました。

本研究の目的は、コロナ禍の2020年、2021年の2年間の骨折患者数やその詳細をコロナ禍以前の2019年と比較し変化を調査することです。

2. 研究の方法

2019年1月1日から2021年12月31日までに頭部と顔面を除く部位の骨折と診断された患者様が対象となります。

3. 研究期間

2022年05月（倫理委員会で承認を得られた日）から2024年1月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、診断名、受傷機転、受傷場所、手術の有無などの情報を調べまとめます。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
研究責任者：所属 整形外科 職 科長 氏名 平良勝章
研究分担者：所属 整形外科 職 医員 氏名 町田真理

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2022年9月30日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）